



「JEITA 防災・減災×IT アイデアソン」 開催報告

ソフトウェア事業委員会／ソフトウェア事業戦略専門委員会では、わが国における社会インフラ分野の情報利活用の現状や課題等について調査・検討を進めています。過年度の調査検討においては、2011年3月の東日本大震災の教訓を踏まえた「安心・安全」、「快適・便利」な社会の実現をめざす姿と捉え、社会インフラの情報利活用による震災への備えと消費者の利便性を実現する環境整備を課題と設定し、安心・安全かつ快適・便利なスマート社会実現に向けた施策を検討しました。

本年度は、震災発生時にITをどのように活用すれば、被災地や支援者に対し役に立つツールになれるのか、課題先進国である日本の問題解決に向けた施策の1つとしてアイデアソンを実施し、IT・ソフトウェアによる課題解決の可能性やアイデアを広く募ることとしました。

日 時：平成28年10月31日(月) 10:00～18:00
場 所：JEITA 402～403会議室
参加者：20名(5名×4グループ)

プログラム概要

①特別講演 1

復旧・復興プロセスに必要なコトは何か？

支援者の立場から

講師：鷹野 秀征 氏

(一般社団法人新興事業創出機構 理事長)

②特別講演 2

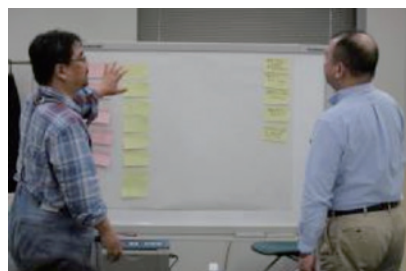
Data for the Resilience City

～防災・減災で活きるデータ～

講師：小林 徹生 氏

(インフォラウンジ合同会社 業務執行社員・副社長)

③参加者によるグループディスカッション



④成果発表

■グループ A

サービス名：防災コンシェルジェ

グループ A は、災害発生後の一次対応の迅速化等を支援することを目的に、災害対応窓口となる自治体に対して、災害対応手順書とリアルタイムデータを組み合わせ、コンシェルジェのように有用な情報等を発信する仕組みを提案した。

■グループB

サービス名：避難誘導AI

サービス・防災マッチングサービス

グループBは、震災発生後の72時間までを対象とした災害計画 (Life continuity planning) をテーマとして、被災者に対して行政及び企業が提供する2つのサービスを提案した。

■グループC

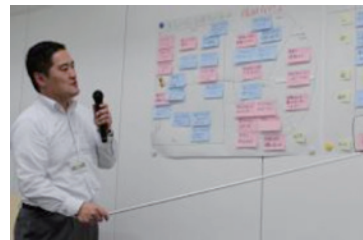
サービス名：意識高い系防災

グループCでは、集合住宅の住民に防災に対する意識を高め、屋内での災害対策を促進させることを目的に、建物の安全性を評価・シミュレーションするサービスを提案した。

■グループD

サービス名：復旧GO！

グループDは、復旧時の防災・減災のプラットフォームとして「コミュニティ支援プラットフォーム」を提案した。平常時は通常のサービスとして利用されている仕組みを、緊急時は防災・減災目的の利用に切り替えることで、持続可能な仕組みとしている。



⑤審査結果

■グループA

被災者をユーザーとするのではなく、災害対応を行う自治体をユーザーとしたアイデアは新鮮であった。広域災害時等にデータ連携を行う仕組み等があれば、さらに活用範囲が広がる可能性がある。

■グループB

2020年までの期間に実現可能な現実的なアイデア・仕組みであった。人が判断するのではなく、中立な立場から機械が判断することで公平性を担保する等のアイデアは興味深い。

■グループC【特別賞】

ビジネスモデルや導入先(ユーザー)の具体的なイメージや、データの分散処理を行うことが具体的に想定されているほか、家の中の防災を対象としたサービスは非常に独創的であった。

■グループD【最優秀賞】

既に普及しているモノやサービスを、災害時等で利用するアイデアが具体的かつ現実的であった。ITやデータの活用という観点で特徴が見られるとより良いアイデアになるのではないか。